

●ブログ「古田史学の継承のために」議論の記録 11

2017年6月3日(土)

観世音寺創建年代に関する古賀説批判(上城さん)

古賀さんの観世音寺創建年代の考え方は「ニ中歴」及び、「勝山記」をベースに、670年創建とするものです。しかし、この考え方は「日本書紀」の斎明天皇の菩提を弔うため、天智天皇が観世音寺を作ったという記載を信じる立場です。観世音寺は大宰府政庁(この呼称は正しいとは思われませんが、便宜上)2期と一体のものです。そうであるならば、もし670年創建とする立場にたつと、大宰府政庁2期も近畿天皇家が建設したものとなります。実際、古賀さんが高く評価する井上信正説は大宰府1期を670年頃、大宰府2期を8世紀初めとするもので、近畿天皇家一元主義の考え方の中では筋が通っています。観世音寺創建年代を考える上で、重要な指摘が過去に行われました。故三浦茂雄同志社大学教授(粉体力学)によってです。観世音寺に現存する「てんがい(石に展 石に豈)」に対してです。「寺院建設のための朱をひいたものである」とし、中国も調査して、洛陽の少林寺に観世音寺のものとはほぼ同じものがあり、これが625年のものであることから、観世音寺の「てんがい」を「日本書紀」推古18年春3月条の「てんがい」であるとしたのです。この指摘から考えれば、610年代に観世音寺は創建されたことになり、「隋書」の「多利思北狐」のあり方と矛盾は生じないのです。

2017年6月3日(土) 古田史学 | 固定リンク

コメント

観世音寺の碾磑(てんがい)の話は初めて聞きました。そして同時に碾磑(てんがい)という言葉も初めてでした。

推古18年3月の記事というのは次のものですね。

十八年春三月、高麗王貢上僧曇徴・法定。曇徴、知五經、且能作彩色及紙墨、并造碾磑。

蓋造礪礎、始于是時歟。

講談社学術文庫の全訳日本書紀でこの項を見てみると、礪礎（てんがい）＝水臼で現代語訳されていました。だから礪礎（てんがい）を知らなかったわけです。

礪礎（てんがい）を前に「古田史学の会」のサイトで見たような気がしたので、検索してみたところ、古田史学会報 114 号掲載の大江論文「礪礎と水碓—史料の取り扱いと方法論」に出会いました。 <http://www.furutasigaku.jp/jfuruta/kaiho114/kai11405.html>

この論文は、古賀さんの「観世音寺・大宰府政庁 II 期の創建年代」六七〇年代説（古田史学会報 110 号）の補足に使われている正木さんの「観世音寺建立と礪礎」（古田史学会報 110 号）を批判するものですが、正木さんの論が、通説の礪礎（てんがい）＝水碓（すいたい：石臼）を無批判に受け入れての論であったことがよくわかりますね。

古賀説も正木説もともに、通説の一部を無批判に受け入れて論の前提にしていることがよくわかります。

投稿：川瀬健一 | 2017 年 6 月 3 日 (土) 23 時 01 分

観世音寺の寺の名について

古賀さんは「二中歴」細注に観世音寺創建に関する記事があることから、この寺の創建年代を推定しています。

でもこの寺の名は本当に観世音寺なのでしょうか。

平安時代にできた「観世音寺資材帳」でも金堂の本尊は「丈六銅造の阿弥陀如来坐像であり、両脇侍の菩薩像をともなつて」いた。観音が主仏なのは講堂の方である。

観世音菩薩が金堂の本尊であれば観世音寺という寺名は良くわかる。だが金堂の本尊が阿弥陀如来なら、寺名はもっと別の物であったはずである。

観世音寺の名が史料に出てくる最初は、『続日本紀』の大室元年 8 月 4 日に太政官の命により、観世音寺の食封を停止するとの記事である。いきなり官寺としての資格を停止すると出てくる。この記事そのものが、この寺が近畿天皇家が造営し官寺としたものではなかったことを示している。そしてこの前の正史である『日本書紀』にはこの寺の名前は無い。『続日本紀』ではこの寺は、天智天皇が母斉明天皇の菩提を弔うために建立したとの記事があっても、『日本書紀』には該当の記事がないのだ。『続日本紀』の観世音寺創建の話は嘘である証拠。

そして考慮しなければいけないことは、天武 8 年の次の記事。「夏四月辛亥朔乙卯、詔曰、商量諸有食封寺所由、而可加々之、可除々之。是日、定諸寺名也。」

つまり食封を給されている官寺の由来を調べろと命じ、諸寺の名を定める（正しく変える）、と命じたとの記事だ。

この命令が本当にこの時期にあったかどうかは確かではない。なぜなら当初法興寺と呼ばれた寺が、飛鳥寺と呼ばれたのは、この命令のずっと前、斉明天皇のときだからだ。諸寺の名を改める行為は、天武 8 年が最初ではないのかもしれない。しかし確かなことは、列島支配権を手に入れた近畿天皇家は、諸国にある官寺を調査し、食封を停止したり寺名を変えさせたりしたということだ。

ということは、観世音寺は九州王朝時代には別の名前であった可能性が高いと思う。このことは法隆寺の現在の伽藍がどこの寺の移設であったのかを論じた中でも、論じられたことだと思う。そしてこの先行研究の中でも、天武によって諸国の官寺の食封停止や寺名変更が論じられていたのに、これを無視して、「二中歴」の細注に観世音寺の名があることを根拠にこの寺の創建年代を論じるなど、古賀さんは先行研究を完全に無視していることがわかります。

投稿：川瀬健一 | 2017年6月9日(金) 23時22分